

令和 2年 10月 吉日作 成
令和 3年 2月 吉日一部修正

関 係 者 各 位

株式会社 大 和
代表取締役 黒 木 幸 徳

【大和農法】の【大和光輪石】と【YK-T】の施用方法について

【大和農法】について、その実施方法について誤った施用方法を理解している方が見受けられましたので、以下にその実施方法を分かり易く説明します。

記

1 【大和農法】とは

【大和農法】とは、土壌改良剤【大和光輪石】を使って実施していたこれまでの農法でも十分効果があったものの、これ以上の方法はないものか、と日々研鑽していた時、弊社の前に現れたのが【UMA】でした。

同【UMA】のみを使って実施していた農法においても、他に何か良い方法はないものかと探していた時期であり、その思惑が双方一致し、**土壌改良剤【大和光輪石】と【UMA】とを同時に使用する農法**を思い当たり、試行錯誤を繰り返して完成させた農法を【大和農法】と呼称し、皆さん方に広めることとしたのでした。

つまり、【大和農法】とは、土壌改良剤【大和光輪石】を単独で使用する農法でも、また【UMA】を活用した有機肥料【YK-T】のみを単独で使用する農法でもなく、あくまで

土壌改良剤【大和光輪石】と有機肥料(有機肥料は【UMA】を使った【YK-YHG】で製造した【YK-T】でなければなりません(……))を同時に使用する農法

なのです。

つまり、土壌改良剤【大和光輪石】と【UMA】を同時に使用すると言いましたが、【UMA】そのものは出荷できませんので、【UMA】を使って製造した【YK-KHG】と呼称している有機肥料を製造するための原料を出荷しますので、この原料【YK-KHG】を使って製造した有機肥料(いわゆる堆肥)【YK-T】の、両方を使って実施する農法なのです。

その使い方は、先ず土壌改良剤【大和光輪石】を規定量のうち一面に均一に散布し中耕又は深耕した後、【YK-T】を施用します。

このところを誤解されて単独で土壌改良剤【大和光輪石】のみしか使わなかったり、

あるいは有機肥料【YK-T】のみを使っている方が散見されました。
片方だけの使用では【大和農法】とは言わず、また【大和農法】で言っているような効果は認められません。

2 施用方法

- (1) 先ず最初に、1,000m²(1反歩)当たり 20 kgの土壤改良剤【大和光輪石】を均一に散布します。出来ましたら中耕(または深耕)をして頂くとより良い効果が現れますが、必ずしも中耕の必要はありません。
- (2) 次に別途に、【UMA】から作った【YK-YHG】を使って、有機肥料【YK-T】(堆肥)を作ってください。(製造方法は伝授します。)
- (3) 出来上がった【YK-T】を 1,000m²当たり通常 40 kgを施用します。

施用方法……平坦地の場合

ほぼ中央部にφ600 mm×深さ 300 mmの穴を 4 個掘り、同穴の一つひとつに 10 kgの有機肥料を入れます。(合計 40 kg)
その後、一つの穴に約 60~80 ℓの水を入れて、上部に 10 mm~20 mmの土を薄く掛けます。

(【UMA】の中には空気より軽い菌が入っていますので、その菌が逃げ出さないように上に土を掛けますが、好気性ですので光が当たり空気が入るように薄く掛けます。)

……斜面の場合

斜面のやや上方に、上記と同様にして施用します。

(水は下方に流れるので、やや上方にします。)

- 注意事項……① 今まで化学肥料一辺倒の農地には 50 kg施用してください。
また、石灰を散布したところは、約 1 週間~10 日後に施用のこと。
- ② 施用量が直単に少ないと思います。一般の有機農法ではいわゆる堆肥と呼んでいる有機肥料は 1,000m² 当たり、通常 1,500 kg~2,000 kgという量を施用し、且つそれでも途中で足りない分のリン肥料やカリ肥料等の化学肥料を追肥で与えなければならぬと思いますが、【大和農法】では、先のとおり少量でも追肥等の必要はありません。
- ◎ 【大和光輪石】のみでも各種の作用がありますが、さらに【YK-T】の中に生息している【UMA】の菌類は、【大和光輪石】のミネラル分(70種類)を活力源として活動し各種の効果を表すのですが、同菌は半径 50m ほど土中を移動すると言われています。

- (4) 上記土壌改良剤【大和光輪石】と有機肥料(【YK-T】)を施用後、1週間～10日後に中耕又は深耕した後作物を定植してください。

3 その他参考事項

上記【大和農法】では、殆んど害虫の付着がなく、また疾病の発生も殆んどありませんので、農薬の散布の必要性はほぼありませんが、それでも完璧に病虫害が付かないという保証はありませんので、万一病虫害が付着した場合は、躊躇せずに適切な農薬を散布してください。

そうして散布された農薬は、初めて【大和農法】を行った農地では72時間～1週間以内、今まで数回【大和農法】を行っている農地では48時間以内には与えた農薬はしっかりと効果を発揮した後完全に消滅します。

分析を行っても全く残留していません。

完全なる無農薬の作物になります。

以上